りんご

「成らせすぎ」に注意！見直し摘果の徹底を!!

「成らせすぎ」の園地では着果状況を点検し、見直し摘果を徹底しましょう。

栽培日誌の記帳を忘れずに！

収穫前に栽培日誌を確認しますので、必ず栽培日誌を記帳して下さい。

早生種の収穫期をむかえ、着色管理に手を抜かず高品質の果実生産に努力しましょう。

支柱入れ

樹冠内部まで光が入るようにこまめに行う。（真夏日は日焼けに注意）

支柱入れは、SSの走行に支障がないように通路を確保する。

ビターピット防止対策

着果量が少ない樹や、樹勢が強い樹は、カルシウム欠乏によるビターピットの発生が予想されます。積極的にカルシウム剤の果面散布を行いましょう。

落果防止剤（ストッポール液剤）の散布

早生つがる（つがる姫・ひらかつがる）は、普通つがると区別して栽培管理を行って下さい。

ア．落果防止剤はストッポール液剤を使用し、表のとおり使用基準を厳守する。

イ．本剤は葉から吸収されて効果を出すので葉に十分かかるようにする。葉摘みは散布4～5日後から始める。収穫は、散布7日後までできないので注意する。

ウ．散布により軟果が起こる場合があるので、収穫前落果の少ない品種には使用しない。

スズメバチ対策

1 スズメバチ捕獲器の作り方と設置の仕方

ア．ペットボトル（2ℓ）を利用し、上部側面4か所にカッターで縦横4～5㎝程度の穴を開け、スズメバチの入り口を作る（図1）。あまり大きな入り口を作ると、中に入ったスズメバチが逃げたり、大型の甲虫類などが入る。

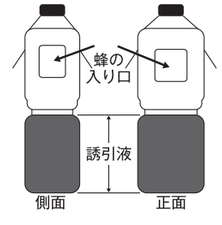


図1　ペットボトルを利用したスズメバチ捕獲器

イ．ペットボトル上部の注ぎ口又はスズメバチの入り口からボトル内部に誘引液を500㎖程度注ぐ。液が不足するとスズメバチが溺死しないので、夏季は蒸発に注意して液を補充する。

ウ．スズメバチ等が入った誘引液は腐敗が進むので1週間程度で交換し、ボトル内部の死骸を処分する。スズメバチが多量に入った場合、後から入ったスズメバチが溺死しないので、誘引量に注意して早めに液を交換する。誘引液の交換の際、ボトル内部に生きたスズメバチがいる場合は、市販のスズメバチ用殺虫スプレーを噴射し、スズメバチが死んでから液を交換する。

なお、腐敗が進むとスズメバチの誘引が減少し、腐敗した昆虫に誘引されるハエ類の誘引が増加するうえ悪臭がするので、腐敗の進み具合に注意して早めに液を交換する。

エ．捕獲器は園地周縁などの人が近づかない場所で、直射日光の当たらない高さ1.5～2ｍ程度の位置にひもや針金でつるす。園地内や人が出入りする場所への設置は避ける。

品種	散布時期	回数	倍数	散布量	摘要
つがる	収穫開始予定日の15～20日前（8月15～20日頃）	1回	1,000倍（10ℓ当たり10㎖）	350～400ℓ/10ａ	展着剤不要

2 スズメバチ誘引液の作り方

スズメバチは樹液や熟した果実、発酵したジュース類などに誘引される。誘引液は様々なものが考案され、利用されている。下記に事例を紹介する。誘引液にはスズメバチ以外にも樹液に集まる鱗翅類や甲虫類、ハエ類が多数誘引される。誘引液は費用やスズメバチの誘引効率、作りやすさなどを確認しながら模索する。

ア．日本酒：食酢：砂糖＝2：1：1

イ．焼酎：オレンジジュース＝1：1

ウ．乳酸発酵飲料（カルピス）：水＝1：1又は6：4

＊着色手入れ

(1) 実施時期

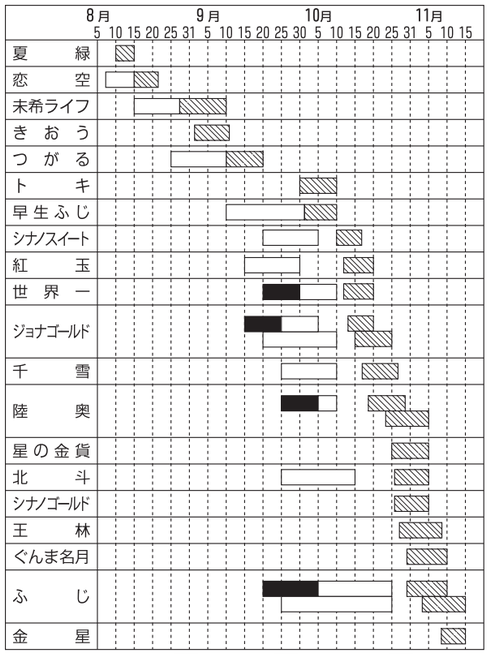
品質別実施時期は、図に記したとおりであるが、年によって熟期に遅速があるので、それに応じて時期を前後させる。

(2) 作業の進め方

○葉摘みは始め果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後数回に分けて果実に日陰を作る葉を摘み取る。

○支柱の位置を動かしたり、小枝を縄で吊り上げたり、不要な徒長枝を剪去して樹幹の内部に十分日光を入れる。ただし、高温で晴天のときに行うと果実に日焼けを起こすことがあるので注意する。

品種別着色手入れ及び収穫時期



注）ジョナゴールド、陸奥、ふじの上段は有袋栽培、下段は無袋栽培
　未希ライフ、きおう、トキ、早生ふじ、シナノスイート、千雪、星の金貨、シナノゴールド、ぐんま名月はわい性台木利用樹の場合
　未希ライフ、きおう、つがるは落果防止剤（ストッポール液剤）を散布した場合

メロン すいか

＊ウイルスを撲滅しよう！

◇除草の徹底

感染源となる雑草は、ハウスやトンネルの周辺に多く、いずれも越年生雑草で夏から秋にかけて発芽し、この時点でウイルスに感染し、春～初夏にメロンへの感染源となり、アブラムシの移動、飛来により感染する。

収穫終了後、ほ場周辺の雑草に、根まで枯らすタイプの除草剤を散布することをおすすめします。春先にもう一度散布すると効果ありです。剤名としては、**スギナに強い「バスタ」「ラウンドアップマックスロード」**等があります。

◇土づくりについて

近年、ネコブセンチュウや、つる割れ病などの土壌病害の発生が若干見られる。病害の発生には様々な要因があるが、そのひとつとして土壌環境の悪化が考えられる。そこで堆肥の投入、「夢ボカシ肥料」の施用をし、土壌微生物を増やすことにより、病害や生理障害を軽減することができることを考慮してもらいたい。

↓散布後、株元へ土寄せする。

軟白のボケが目立つので、最終培土時は必ず手作業で襟元をしっかり補修してください。（最終培土後20日後が出荷目安）

肥料の吸い上げが悪いほ場では、葉面散布を併用してください。

○薬剤散布

農薬の使用基準を必ず守り、早生品種に注意しながら薬剤を選択しましょう。

主な薬剤		安全使用基準
8月半ば（11回目）8／14～17		
1．展着剤		
2．（コロマイト乳剤）ダニの発生がない場合は次回へ入れる。	（1,000倍）	収穫前日まで
3．イカズチWDG	1,500倍	収穫前日まで
4．アリエッティC水和剤	800倍	収穫前日まで
5．（カルシウム剤）		
8月末（12回目）8／29～9／1		
1．展着剤		
2．ダイパワー水和剤	1,000倍	収穫前日まで
3．デリゲートWDG	10,000倍	収穫前日まで
4．（カルシウム剤）		
※特別散布（9月中旬）9／15日頃		
1．展着剤		
2．ストライド顆粒水和剤	1,500倍	収穫前日まで
又はオーソサイド水和剤	800倍	収穫前日まで

※高温時にカルシウム剤を散布すると薬害を助長する恐れがある。

○黒星病対策

被害果や被害葉は摘み取って土中に埋める。また、9月中旬の特別散布時にストライド顆粒水和剤またはオーソサイド水和剤を使用することで秋季感染の防除効果を期待できる。

ネギ

スリップス、ネギコガの多発時期なので、ほ場を見回り早めの防除を徹底してください。

ほ場に水が溜まり、酸欠で生育が悪い時は？

・ネオカルオキソ（10kg袋）

水稲

いもち病・斑点米カメムシ類の防除を徹底しよう!!

有機物の施用は単年度で効果が現れるものではないが、畑を肥やすため、消費者に買ってもらえるメロン・すいかづくりには今現在では、かかせないものとなっている。

＊水管理

生育時期	寒い日	暖かい（暑い）日	備考
出穂開花期	10㎝程度	5～6㎝程度〈時々水の入れ換え〉	最高気温が25℃以下では開花・受精不良
登熟期	10㎝程度	2～3㎝程度〈時々水の入れ換え〉	台風時は6㎝程度
落水時期	○湿田：出穂後20～25日 ○乾田：出穂後30～35日		登熟が遅れている場合は、穂の熟色や稔実程度をよく観察しながら徐々に落水する。

○出穂後6～10日に最高気温が30℃以上の高温となった場合、胴割米が発生しやすくなるので落水を早めない。

＊病害虫防除

◇穂いもち病

○上位葉に葉いもちが多数見られる場合や、出穂期に降雨が続くなど、穂いもちの多発生が予想される場合には、穂揃期5～7日後にも追加散布する。

◇カメムシ類

○草刈りは、出穂後3週間後までは行わない。

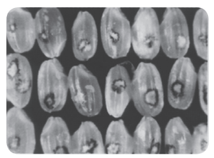
この期間に草刈りが必要な場合、畦畔や休耕田に薬剤散布後、速やかに行う。

○本田での茎葉散布は、残効性の高い1回散布を基本とし、穂揃期～穂揃14日後までに散布する。

薬剤名	防除適期
キラップ	穂揃期（～穂揃1週間後）
スタークル	穂揃1～2週間後
ダントツ※	

※粉剤を使用する場合、ダントツH粉剤DLを用いましょう。

アカヒゲホソミドリカスミカメ



カメムシ類による口吻痕

○高温年など登熟後期にカメムシ類の発生が多い場合は最終散布の7～10日後に追加防除を行う。

水稲栽培日誌の提出は8月31日までです。